



平成 25 年
12 月


自転車文化センター
友の会だより


冬の号
第 24 号



「2014 ハンドメイドバイシクル展」
 2014 年 1 月 25 日 (土) ~ 26 日 (日)

入場
無料

自転車文化センターでは、自転車の可能性を追求した「2014 ハンドメイドバイシクル展」を科学技術館1F 催事場にて開催いたします。「ハンドメイドバイシクル展」では、自転車に対する深い造詣、高い技術を持つ国内のビルダーによって造られた世界に一台の自転車・パーツを集め展示いたします。また、ビルダーによるトークショー & 座談会を同時開催します。

日 時 平成26年1月25日(土)~26日(日) (2日間) 9:30~16:50
 場 所 科学技術館 1階催事場 (千代田区北の丸公園2-1)
 内 容 ハンドメイドによるスポーツ用自転車、街乗り用自転車、シニア・障害者向け自転車の実車展示 / 独自の技術が施された自転車のパーツの展示 / 当センターが所蔵する1964年東京オリンピック関連資料の展示 / ハンドメイドビルダーによるトークショー & 座談会

出展社(予定) アマダスポーツ/エム、マキノサイクルファクトリー/WELD ONE/オートクラフト・IZU/加島サドル製作所/絹自転車製作所/紀洋産業/近藤機械製作所/今野製作所/SANO MAGIC/Sunrise cycle/タカムラ製作所/TESS/東叡社/ドバツ・ライノ・ハウス/ナガサワレーシングサイクル/サイクルストアヒロセ/細山製作所/マツダ自転車工場/ビチスポーツモリアイ/渡辺捷治製作所/サドル工房アティック/あぶくま自転車工房/Equilibrium cycle works/BYOB Factory/Helavna Cycles/山音製輪所

「トークショー & 座談会」 事前申込み受付中!

◆1/25(土) トークショー

申込番号①	10:30~11:30	絹自転車製作所	荒井 正 氏
申込番号②	11:40~12:40	近藤機械製作所	近藤 信夫 氏
申込番号③	12:50~13:50	ドバツ・ライノ・ハウス	齋場 孝由 氏
申込番号④	14:00~15:00	ナガサワレーシングサイクル	長澤 義明 氏

◆1/26(日) トークショー/座談会

申込番号⑤	11:00~12:00	今野製作所	今野 真一 氏
申込番号⑥	12:30~13:30	SANO MAGIC	佐野 末四郎氏
申込番号⑦ 「座談会」	14:00~15:30	WILD ONE エム、マキノサイクルファクトリー オートクラフト・IZU 紀洋産業 サイクルストア・ヒロセ Sunrise Cycle ビチ・スポーツモリアイ 細山製作所	小西 栄二 氏 牧野 政彦 氏 高田 克伸 氏 岡田 勝博 氏 廣瀬 秀敬 氏 高井 悠 氏 盛合 博美 氏 細山 正一 氏

◇事前申込方法◇ 下記1~4 をお書きのうえ、メールまたはFAXでお申込みください。

1. 名前(ふりがな) (複数人の場合は全員のお名前をお書きください。)
2. 連絡先 (電話番号、メールアドレスまたはFAX番号)
3. 申込番号 (複数可)
4. ビルダー・メーカーに対するご質問などがありましたら、お書きください。

送り先: Email bccask@jifu.jp Fax 03-5224-4558

当センターより、「お申込み完了」の返信をもって申込み完了とさせていただきます。

(当日参加も可能ですが、事前申し込みをいただいた方を優先とさせていただきます。)

自転車ブランド名考察

自転車文化センター学芸員 谷田貝一男

国内で自転車の製作が本格的に始まった明治30年代中頃から、保有台数は増加を続け、大正6年には100万台を突破し、昭和12年には戦前における機械輸出金額のトップを占めるまで成長しました。太平洋戦争で生産、保有台数とも減少したものの、戦後の昭和24年には戦前を上回る保有台数に達し、翌25年に1000万台、36年に2000万台を超えました。

この間に多くの自転車が海外から輸入され、国内で生産され、そのほとんどの自転車は製品ごとに名称が付けられ、その名称やそれに因んだマークあるいは製作会社の名称やマークが車体に付けられていました。その数は4000件以上と思われますが、現在は3618件がデータとして記録されています。それらの名称の中から、変わった名称を集めてみました。

車名の後に記載してある社名が発売した会社で、住所は当時のものです。年号は車名が記載された文献の最初の発行年です。

《偉人編》 歴史上の人物や物語に登場する人物を車名にしたもので、大正期に多く登場しています。

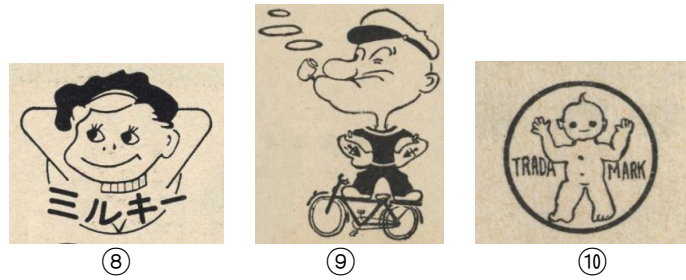
- ①[乃木号] 糸野領太郎商店(東京市深川区) 大正9年 乃木希典の顔のイラストが描かれたマークです。
- ②[ナイチンゲール号] 兵庫自転車自動車製作所(神戸市) 大正11年
- ③[ナイチンゲール号] ナイチン商会(神戸市) 昭和4年 2社はマークが類似していること、所在地が同じ市であることなどから互いに関係があったと思われます。
- [秀吉号] 谷商会(大阪市) 大正11年
- [ナポレオン号] 大一商店(大阪市) 大正13年
- [信長号] 吉本自転車店(名古屋市) 大正14年
- ④[偉人号] 服部自転車製作所(名古屋市) 昭和6年 誰の顔かは不明です。
- ⑤[カント号] 一ノ坪フレーム製作所(大阪市) 昭和31年 カントの横顔のイラストが描かれたマークです。
- ⑥[金太郎号] コムコ輪業(奈良県大和郡山市) 昭和33年 まさかりを担いだ金太郎のイラストが描かれたマークです。
- ⑦[サンタクロース号] 服部自転車(大阪市) 昭和33年 サンタクロースの顔のイラストが描かれたマークです。



《パクリ編》 著名な商品名やイラストを利用しています。現在のように様々な広報媒体がある時代ではないため、宣伝活動・購入者も地域が限定されており、著作権・商標登録という意識も希薄だったのではないでしょう。

- [カルピス号] 村山商会(京都市) 昭和6年

- ⑧[ミルク一号] 田中部品製作所(大阪市) 昭和30年 不二屋ミルクのポコちゃんを真似ています。
 ⑨[ポパイ号] 野口商会(台東区) 昭和31年 ポパイのイラストをそのまま使っています。
 ⑩[キューピー号] 近江屋商会(大阪市) 昭和32年 キューピーのイラストをそのまま使っています。



《野球編》 日本の野球の歴史は明治期から始まり、明治36年に早慶戦、大正4年に夏の高校野球、大正9年にプロ野球がそれぞれ始まりましたので、大正期に野球を題材とした車名が存在しても不思議ではありません。

- ⑪[ポール号] 岡本製作所(名古屋市) 大正11年 野球のボールのイラストが描かれたマークです。
 [野球号] 松原商会(名古屋市) 大正11年
 ⑫[ホームラン号] 山中自転車製作所(台東区) 昭和27年 ギヤを表したイラストの中にバットとボールのイラストが描かれたマークです。
 ⑬[ベビーナイター号] 片野商会(名古屋市) 昭和31年
 [ナイター号] 片野商会(名古屋市) 昭和31年 野球場のナイター用照明塔のイラストが描かれたマークです。
 ベビーナイター号は子ども用自転車です。
 ⑭[キングホームラン号] 服部自転車(大阪市) 昭和32年 3本のバットとボールのイラストが描かれたマークです。



《外国地名編》 明治期から昭和30年代までの長期間に渡って使われているのが外国の地名です。アメリカ・ヨーロッパが中心ですが、昭和30年代はアジアなども増えています。外国の地名を車名に用いるのは、明治期から大正期は、当時の国産自転車の性能がアメリカ・ヨーロッパ製には及ばなかったため、あたかもアメリカ製・ヨーロッパ製と思わせる意図があったからです。これに対して、昭和20～30年代は世界に広がる自転車という製作会社の希望が入っていたのではないかと思います。

- [コロンビア号] 亜米利加自転車(アメリカ) 明治35年
 [スーダン号] 石川商会(横浜市) 明治40年
 [ワシントン号] 宮田製作所(東京市本所区) 明治41年
 ⑮[イングランド号] 原島商店(東京市日本橋区) 明治41年 ライオンのイラストが描かれており、イングランドを表現しているイラストではありません。
 [エベレスト号] トクナミ商会(大阪市) 大正12年
 [五大州号] ナショナル商会(東京市日本橋区) 大正12年
 [シドニー号] 伊藤良雄(大阪市) 大正14年
 [シベリヤ号] 佐々木自転車店(大阪府泉南郡) 大正14年
 ⑯[世界一号] 岡本製作所(名古屋市) 大正14年 世界地図らしいイラストが描かれたマークです。
 [アメリカ号] 西條商店(徳島市) 大正14年

- ⑰[アンデス号] 林屋商店(神戸市) 大正14年 アンデス山脈のイラストが描かれたマークです。
 [ビルマ号] 山田商会(神戸市) 大正14年
 [ベニス号] 帝国鉄工(神戸市) 大正14年
- ⑱[エフェル号] 小峰製作所(東京市浅草区) 昭和2年 パリのエッフェル塔のイラストが描かれたマークです。
- ⑲[アマゾン号] ツノダ自転車(名古屋市) 昭和29年 アマゾン地域を表すために、ブラジルを中心に置いた南北アメリカ大陸のイラストが描かれたマークです。
- ⑳[アマゾン号] 不二自転車製作所(台東区) 昭和29年 王冠を表したイラストと「AMAZON」の文字が入っているマークです。
- ㉑[ナポリ号] 乙田製作所(大阪府堺市) 昭和29年 世界地図のイラストが描かれたマークです。
- ㉒[テキサス号] 中迫商事(神戸市) 昭和31年 テキサスということで、インディアンが描かれたマークです。
- ㉓[ロッキー号] 宮崎県自転車工業協同組合(宮崎市) 昭和31年 王冠を表したイラストと「ROCKY」の文字が入っているマークです。
- [スエズ号] 龍清工業(名古屋市) 昭和32年
- ㉔[アジア号] エビス輪業(大阪市) 昭和32年 世界地図のイラストが描かれたマークです。
 [ケニア号] 武田全弘製作所(大阪市) 昭和32年
- ㉕[ヒマラヤ号] 中西金属工業(大阪市) 昭和32年 ヒマラヤ山脈のイラストが描かれたマークです。
- ㉖[スイス号] 太陽輪業(兵庫県姫路市) 昭和33年 ギヤを表したイラストの中に「SWISS」の文字が入っているマークです。



⑰



⑰



⑰



⑱



⑲



⑳



㉑



㉒



㉓



㉔



㉕



㉖

《国内地名編》 外国の地名同様、大正期から昭和30年代まで長期間に渡って使われています。車名は製作会社の所在地もしくはその地域に因んだものが多く見られます。

- ㉗[四天王寺号] 寺井自転車製作所(大阪市) 大正11年 梵鐘のイラストが描かれたマークです。
- ㉘[天王寺号] 寺井自転車製作所(大阪市) 大正11年 鳥居のイラストが描かれたマークです。
 [東海号] 東海商会(東京市下谷区) 大正11年
 [近江号] 小宮山岩次郎(東京市小石川区) 大正14年

②⑨ [北日本号] 米澤製作所(山形県米沢市) 大正14年 ギヤを表したイラストの中に「KI」の文字が入っているマークです。

[九州号] 宮地商会(福岡県大牟田市) 大正14年

③⑩ [難波号] 木寺製作所(大阪市) 大正14年 「難波号」の文字が入っているマークです。

[東北号] 藪内自転車商会(福島市) 大正14年

[横浜号] 平戸商会(横浜市) 大正14年

[明石号] 伊藤製作所(東京市本所区) 昭和2年

[奥羽号] 板垣商店(仙台市) 昭和4年

③⑪ [妙高号] 竹内工場(東京市本所区) 昭和4年 妙高連山のイラストが描かれたマークです。

③⑫ [新橋号] 新橋自転車工場(港区) 昭和27年 競輪用自転車を製作していたため、3人の選手がレースを競っている様子をアレンジしたイラストが描かれたマークです。

[赤城号] 川澄製作所(台東区) 昭和29年

③⑬ [山陽号] 山陽自転車(神戸市) 昭和29年 ギヤを表したイラストの中に「山」の文字が入っているマークです。

③⑭ [富士号] 日米富士自転車(台東区) 昭和29年 富士山のイラストが描かれたマークです。

③⑮ [白山号] ツノダ自転車(名古屋市) 昭和30年 白山をイメージした山のイラストが描かれたマークです。

③⑯ [関東号] 関東自転車工業(台東区) 昭和31年 社名の「KJK」文字が入っているマークです。

③⑰ [霧島号] 中央輪業(福岡県戸畑市) 昭和31年 翼を表したイラストと「難波」の文字が入っているマークです。

③⑱ [東京号] 東京自転車(杉並区) 昭和31年 ギヤを表したイラストと「東京」の文字が入っているマークです。

③⑲ [濃尾号] 伴野商会(一宮市) 昭和31年 稲穂を表したイラストと「濃尾」の文字が入っているマークです。

[葛飾号] 結城製作所(江戸川区) 昭和32年

④⑩ [伊勢号] 丸華自転車(三重県四日市市) 昭和33年 翼を表したイラストと「伊勢」の文字が入っているマークです。



②⑦



②⑧



②⑨



③⑩



③⑪



③⑫



③⑬



③⑭



③⑮



③⑯



③⑰



③⑱



③⑲



④⑩

歩行者から見たオランダの道路

自転車文化センター学芸員 谷田貝一男

科学研究費補助金基盤研究(B)「安全な自転車利用促進を目指す循環型社会の新しい交通システム構築のための基盤研究」の一環として、11月1日から8日までドイツ・オランダの道路事情・自転車利用状況を調査してきました。

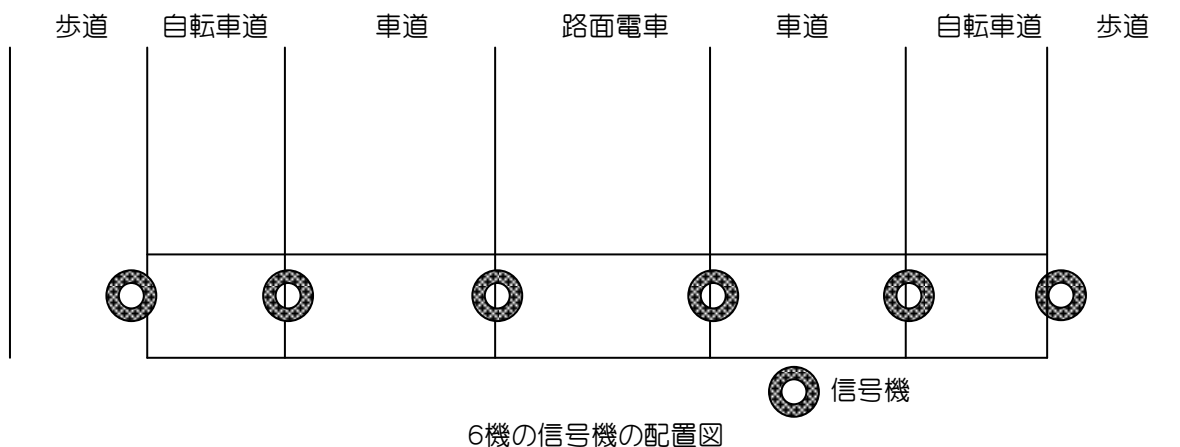
その調査の中から、今回はオランダの道路事情を歩行者の立場から報告します。

①横断歩道

写真1はアムステルダムの南西部にある幹線道路どうしの交差点で、幅員が20mあまりの道路に設けられた横断歩道です。写真には歩行者用信号機が3機映っています(青色が2機、赤色が1機)が、この横断歩道には全部で6機設置されています。その6機は下図のように、自転車道、車道、路面電車の手前にそれぞれ設置されています。



写真1



6機の信号機はいずれも押しボタン式(写真2で、ポールの中にあるボタンを押す)で、横断歩道を渡りきるまでには5機の信号機を確認する必要があります。5機は連動していますが、それぞれの信号機の青色の時間が異なるため、横断途中で信号の色が変わってしまうことも多く、また各走行路の通行量の違いもあるため、信号機が走行路脇ごとに設置されているのです。

この横断歩道は信号機が6機もある他、青色の時間が非常に短いのも特徴です。青信号は5秒ほどで点滅し、10秒弱で赤色に変わります。このため1回の青信号で歩道から反対側の歩道まで渡り切ることが出来ず、大人が普通に歩いても途中で1~2回は止まって信号機のボタンを押す必要があります。



写真3

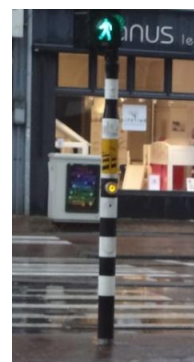


写真2

アムステルダムの横断歩道の歩行者用信号機の青色の時間はどこでも短く、他の地方都市でも同様です。幅員が6mの道路の横断歩道でも、渡りきる前に青信号が点滅します。このように歩行者用の青信号時間が短い反面、赤信号時間は長く、前記の横断歩道では赤色になると青色に変わるまで3分以上待たされます。このため、歩行者の信号無視(写真3)が日本より多く見られます。

① 歩道

幹線道路に沿った歩道は幅員が広く、車道と自転車道の間に駐輪スペースがあるため、歩道に駐輪している自転車はな

く、歩きやすいです(写真4)。幹線道路から一步裏に回ると、自転車は双方向通行ですがクルマは原則一方通行です(写真5)。幅員が広い道路には、駐車駐輪スペースが確保され、歩道も広く歩きやすいです(写真6)。しかし、幅員が狭く歩道も狭い道路も多く、そこでは歩道に自転車が無造作に駐輪している(写真7・写真8)ため、非常に歩きにくく、ベビーカーの通行は非常に難しいです。



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8

オランダ南部にある人口約9万人のオスの幹線道路でも、幅員が十分取れる場合は車道、自転車道、歩道が完全に分離され、歩道は歩きやすいです(写真9)。しかし幅員が十分取れない場合は歩道にしわ寄せがきています。写真10のように歩道の幅員は1mもなく、しかも街灯が真ん中に設置されているため、ここを通過するときは自転車レーンを通らなければならない、たまたま自転車レーンに移動した同行の歩行者が、自転車からベルを鳴らされていました。



写真9



写真10

オスや隣接する人口14万人のデンボスではロータリー式交差点が各地にあります。ロータリー式では交差点を直進する場合、車両も歩行者も円のまわりの一部を回る必要があります(写真11はオス市内)。しかし、デンボス市内にある写真12のロータリー式交差点は、交差する道路の幅員がともに10m~15mあるため歩道は広く、しかも歩行者は直進する場合でも、大きく円を描かずにほぼ直線に近い形で進むことができます。



写真11



写真12

オランダは日本と比較すると、自転車走行空間はどこでも充実していますが、歩行者通行空間は石畳みの路面が多く、幅員や多数の自転車駐輪等のため、高齢者、幼児を連れた人のみならず一般の歩行者にとっても通行しやすいとは言えない箇所が多いのが現状です。

特別展示 「自転車と景品」展 開催中！

期 間 ～2014年1月31日(金)まで
場 所 科学技術館2F (自転車文化センター情報室)
時 間 9:30～16:50(入館は 16:00 まで)



ゼブラ号
(昭和13年ごろ)

全国の昨年度の自転車保有台数は約7000万台で、自転車1台あたりの人口は1.8人となり、これはオランダ、ドイツなど欧州6か国に次いで世界7番目の普及の高さです。

このように自転車が広く普及を始めたのは、約100年ほど前からです。大正3年の第一次世界大戦を契機として輸入が減少したことで、国内の自転車産業が急速に発展を始めたからです。その結果として、価格が輸入車の半分から4分の1まで下がり、保有台数が大正6年に100万台を超え、14年後には600万台を超えました。その後の戦時体制を乗り越えた昭和25年には1000万台を超えましたが、その11年後には2000万台に達するなど、戦前戦後を通じて日本における自転車の普及はめざましいものでした。その一方で、製造会社・卸会社・小売店はお互いに激しい販売合戦を繰り広げていました。1台でも多く売るためには価格・品質での競争だけではなく、買い手を引き付けるための手段の一つとして、景品を付けていました。製造会社が卸会社や消費者に対して、卸会社が小売店に対して、小売店が消費者に対して、その立場は異なっていますが、景品の中身は様々で、その一つ一つはその時代を反映するものでした。

今回の特別展では大正年代から昭和50年代初期までを、10年単位に分けてその当時に国内で造られた自転車と販売拡張のために使われた景品を展示しています。この自転車と景品から当時のなつかしい生活環境を読み取ることが出来ます。



宮田製作所の鉄瓶
(大正時代)



日米商店のポスター
(昭和12年)

平成26年1月開催 自転車セミナー

「自転車と自動車の共存・クルマから見る自転車の危険・ 自転車から学ぶエコ安全運転テクニック」

2014. 1/16 (木) 18:00～ 講師 遠藤 ^{ちかし} 爾氏 (株)大堀 環境事業部 エコドライブ推進担当

近年の自転車ブームの折、スポーツライディングの大人のみならず、子供と親御さんらの自転車交通マナー、交通事故が社会問題となっています。

このセミナーは自転車主体の交通安全マナー学習の場とするとともに、自動車運転者から見る「自転車の危険性」を講師自身が撮影したドライブレコーダー動画に沿って、自転車運転者の危険性を客観的に学ぶセミナーです。さらに自転車ライダーであり、自動車ドライバーである大人の方々にこの場をもって自転車のエコ安全運転技術も身につけてもらえる一石二鳥の学習ができます。

<Profile> エコ安全運転カウンセラー(NPO エコドライブ安全認定3級講師)として、全国都道府県300名のエコドライブ検定合格者を輩出、交通安全協会などで安全運転指導者セミナーを実施。10歳から自転車整備を学ぶほどの自転車愛好家。のちに、自動車レースドライバー・メカニック・エンジニアの道を進む。近年は、カーボンファイバー自転車の開発にも携わる。2006年に片山右京氏の日本自転車縦断伴走・志賀高原こども自転車イベント等を担当する。



日 時 平成26年1月16日(木) 18:00～19:30(開場 17:30)・懇親会(希望者のみ) 19:30～20:30
場 所 自転車総合ビル6F 601会議室(東京都品川区上大崎3-3-1)
参加費 セミナーのみ 1,000円/セミナー&懇親会 1,700円 *当日受付にてお支払いください。
申込み メールまたはFAXで、下記必要事項を記載の上、お申し込みください。
①名前、②電話番号、③FAX番号、④懇親会の参加 or 不参加、
⑤Eメールアドレス(今後セミナー等案内を希望する方)
申込先 Eメール:gyou2@jifu.jp FAX:03-4334-7957
問合せ先 (一財)日本自転車普及協会 Tel03-4334-7952 (平日 9:00～17:00)

自転車をもっと安全・快適に楽しむために。

「自転車市民権宣言」署名にご協力ください!!

1. 私たちは、車両の仲間として左側通行を厳守します。
2. 私たちは、歩行者を最優先し、クルマとともに車道を走ります。
3. 私たちは、ルールや信号を守り、いつも一時停止して安全を確認します。
4. 私たちは、ヘルメット着用につとめ、夜間にはライトを点灯し、万一のために保険に加入します。
5. 私たちは、自転車を正しく管理し、決して放置しません。
6. 私たちは、自転車に高い安全性を求め、安全を維持する整備を怠りません。
7. 私たちは、ドライバーが自転車も車道を走る仲間として認識することを求めます。
8. 私たちは、安全快適に走ることのできる道路の整備と、安全な運転を脅かす違法駐停車の排除を求めます。
9. 私たちは、便利で盗難やいたずらのない駐輪場の確保と、シャワーや着替えができる施設の整備を求めます。
10. 私たちは、自転車の「市民権」確立のため努力します。

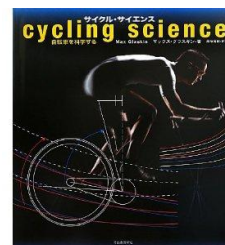
1/31
締切

●賛同いただける方は、 <http://www.bpaj.or.jp/shiminken/> にアクセスのうえ、ご署名をお願いします。

お寄せいただいた署名は、自転車活用推進議員連盟へ、自転車のより良い環境づくりを望む国民の声として提出します。

新着図書の紹介

- 「ぜんぶわかる！自転車トラブル一発解決手帳」(学研パブリッシング ぬかやグループ著/学研パブリッシング)
「サイクルサイエンス」(マックス・グラスキン 黒輪篤嗣編著/河出書房新社)
「世界遺産を巡る自転車旅」(下川靖夫著/パレード)
「京都がもっと好きになる35コース」(多賀一雄著/京都新聞出版センター)
「ノってしまったアナタがまさに！」(Team South East 著/辰巳出版)
「折りたたみ自転車&スモールバイクLife 活用術」(辰巳出版)
「しずおか自転車ツーリング」(静岡新聞社・静岡県サイクルツーリズム著/静岡新聞社)
「アラフォーからのロードバイク」(野澤伸吾著/ソフトバンククリエイティブ)
「女チャリダーふれあい日本一周ひとり旅」(くぼたまきこ著/イカロス出版)
「電動アシスト自転車パーフェクトガイドブック2013」(サイクルプレス)
「茜ときどき自転車」(岡田哲也著/書肆山田)
「交通統計 平成24年版」(公益財団法人 交通事故総合分析センター)
「自転車ロングツーリング入門」(山下晃和著/実業之日本社)
「地図を破って行ってやれ！」(石田ゆうすけ著/幻冬舎)
「超一流自転車選手の愛用品」(仲沢隆著/柘出版社)
「LOOP Magazine 自転車乗りたちのバッグと小物 vol.17」(三栄書房)
「さいくるとりっぶ四国」(エス・ピー・シー)
「Fielder 大特集:週末、自転車で旅に出る。Vol.11」(笠倉出版社)
「MTB 日和 vol.16 今から始める&もっと極めるおいでよトレイル!!」(辰巳出版)
「自転車レストア&ヴィンテージカスタム」(柘出版社)
「多摩川サイクリングロード完全ガイド」(小林一郎 D-create 著/マガジンハウス)
「日本一のダメ会社放置自転車で10億稼ぐ！」(稲本勝美著/こう書房)
「BSM 日本の観光が変わる自転車活用術 Vol.7」(笠倉出版社)
「自転車ツーリングハンドブック」(山と溪谷社著/山と溪谷社)
「That's Real MTB!」(柘出版社)
「That's Real MTB! 2」(柘出版社)
「That's Real MTB! 3」(柘出版社)



寄贈された資料の紹介

- ・山内英司様(神奈川県) セキネの自転車(半纏)
- ・行川誠様(東京都) 競輪選手体力測定報告(書籍)、競輪シリーズ第3号(冊子)、第20回オールスター競輪ファン投票(チラシ)、日競選会報 第1号~13号(雑誌)、プロサイクリスト 第276号~314号(新聞)
- ・西圭介様(大阪府) 世紀転換期のドイツにおけるデュルコップ機械工場株式会社による自転車製造の大規模化(論文)

◆◆2014年4月2日(水)◆◆
自転車文化センターリニューアルオープン!!

自転車文化センターは、目黒に移転し、リニューアルオープンします。新しい施設では、会員の皆様のご要望にお応えできるよう、サービスの提供に努めてまいります。なにとぞ、倍旧のご愛顧をお願い申し上げます。



自転車文化センター
 BICYCLE CULTURE CENTER

◇所在地: 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル1階

◆◆◆科学技術館2Fの施設について◆◆◆

移転に伴い、科学技術館2F 情報室は、平成26年(2014年)1月31日(金)をもって閉室することとなりました。友の会会員の皆様には、長きに渡り、お引き立ていただきましたことに感謝申し上げますとともに、2/1~3/31までの準備期間は、ご不便をおかけ致しますことをお詫び申し上げます。

【自転車文化センター情報室】



H26年1月31日(金)閉室 (4/2より、目黒にて、リニューアルオープン。)
(H26. 2/1~3/31の間、図書・資料の閲覧は、できません。)

♥クローズ期間中のお問い合わせは、電話またはメールにて受付いたします。
 ☎03-3217-1231(月~金9:00~17:00) Email: bccack@jifu.jp

【北ノ丸サイクル】



H26年4月6日(日)閉室

【自転車広場】



引き続き「自転車の歴史」「自転車の技術の変遷」の常設展示を行います。

<科学技術館休館日のご案内>

【年末年始】 12月28日(土)~1月3日(金) / 【2月】 休館日なし / 【3月】 5日(水), 12日(水), 19日(水)

※2013自転車文化センター友の会会員証は、2014.3.31まで有効です。

自転車文化センター 友の会だより 冬の号 (第24号)

平成25年12月25日発行



一般財団法人日本自転車普及協会 自転車文化センター
 〒102-0091

東京都千代田区北の丸公園2-1 科学技術館内

FAX: 03(5224)4558

E-mail: bccask@jifu.jp

URL: www.cycle-info.bpaj.or.jp



RING!RING!
 プロジェクト

自転車文化センターは、競輪の補助を受けて事業を行っております。